

神宮外苑 10km マラソン参戦記

恵谷 浩

2018年12月16日(日)に神宮外苑チャレンジフェスティバル・第36回JBMAユニファイドランの10km一般男子60歳以上の部に参加した。昨年までと違って、今年はスタート・ゴール地点を明治神宮野球場のグラウンドとして行われ、筆者の尾道市向東中学校校内マラソン大会参加からこの方、64回目となる今大会は初めてのプロ野球球場グラウンドでのスタート・ゴールを体験した。

球場内で着替えなどをして、グラウンドに下り、10:45スタート。球場内を約4分の3周し、少し坂の通路を上り場外へ。神宮外苑内の神宮第二球場の横や明治記念館を望んだり、オリンピックに向けて建設中の新国立競技場の横などのコース約2.5kmを4周のラン。開催案内に書かれたスタート時間を5分遅く記憶しており、スタート地点集合のアナウンスで慌てて駆けつけ、最後尾をスタート。さらに、はーはーといいながら4周を終え球場内へという時、靴のひもがほどけ、結び直し、なんとか球場内に入ったと思ったらもう片方の靴ひもがほどけている。このようなアクシデントは64回のマラソン人生で初めて。まーこ

のままと思ったが、ゴール直前で転んで怪我でもしたら大変と結び直し、やっとゴール。直ぐにパソコンから印刷された記録証を受け取り、見ると「1時間14分49秒・ネットタイム1時間13分41秒、部門順位87位の成績で完走されましたのでここに証明いたします」に感動。グラウンドから観客席などを眺め、一段と感動。ヤクルト・カープ戦のとき、観客席のほぼ半分を埋め尽くす赤ヘルファンに力をもらうカープ選手になった気分ですらに感動。記録証を胸に、大会スタッフの



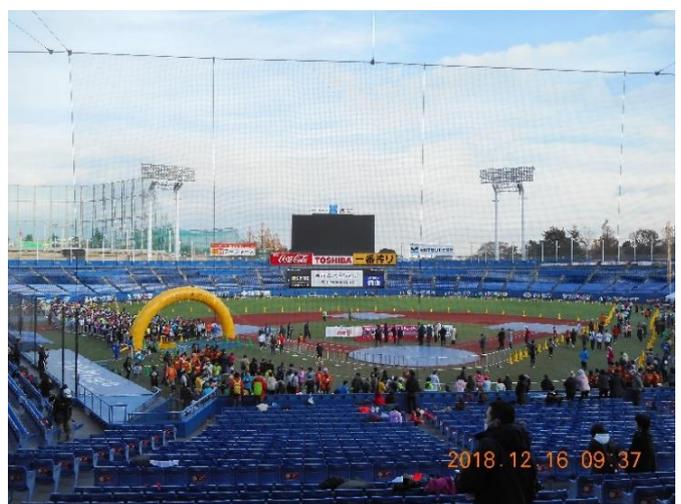
神宮外苑 10km マラソンコース略図

人に記念写真のシャッターを押してもらい、記録証を人工芝の上に置き撮影。また人工芝に触り、感触を確認。芝は随分と柔らかい。テレビで見る選手の人工芝上での滑り込みに危険ではとっていたが、これほど柔らかなら思い切って滑れるはずと納得。部門順位 87 位はエントリー 113 人中で、後日事務局に問い合わせると出走者 92 人とのこと。60 歳以上でピリから 6 番目。うーん、では 70 歳以上だとどうなのだろうか、分からない。昨年よりは約 5 分遅れだがまあいい。制限時間 80 分以内に完走・ゴールで万々歳。

観客席に座り、入賞者表彰式などを眺めながらパンで昼食後、せっかくのプロ野球球場グラウンドに初めて立てたこの機会にと、場内を見学。グラウンドから一段低い所にある監督や選手などの席に座ってグラウンドを見ると、どうも試合の様子は良く見えそうにない。立ちっぱなしで指揮を執る監督が多いのは、選手への鼓舞ばかりでなく、このためなのだろう。太い横棒の後に 1 列に立って身を乗り出して応援・観戦する選手、例えば今年限りで引退表明した新井貴浩内野手、好投し中継ぎに渡した大瀬良投手などをテレビでよく見かけたが、太横棒の下に大きな網目状の金属板が床を離れて設置されており、ここに足をかけていたのだ。なぜコンクリート台でなく、金属板を浮かせてあるのだろうか。さらに、色違いの特別席なども見て、球場の空を仰ぎ、来年のマラソン参戦を胸に神宮球場を後にした。



9:20 明治神宮野球場



9:37 神宮球場内



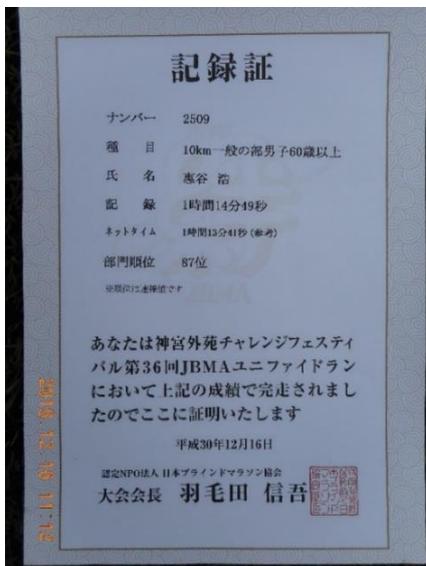
9:50 坂の通路を上り球場外に向けてラン（筆者が最後尾を走りながら撮影）



11:09 記録証を手に喜びの筆者



11:11 グラウンドの人工芝生



11:12 人工芝の上に置いた記録証



11:52 3塁側と外野観客席、中央黄色の半円形輪はスタート・ゴール地点



11:52 バッグネット裏と1塁側の観客席、中央の黄色は特別席